

赤潮・貧酸素情報（12）

平成 26 年 7 月 28 日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター
豊前海研究所長

7 月 28 日の豊前海区沿岸における調査の結果、恒見及び松山漁港内に有害プランクトンのカレニア・ミキモトイの赤潮が、また、稲童漁港内にヘテロシグマ・アカシオの赤潮が認められました。

<カレニア・ミキモトイの状況>

- 恒見漁港内では底層 1 ml 中に 1,360 細胞、松山漁港内では表層 1ml 中に 1,440 細胞のカレニア・ミキモトイの増殖が認められました。
- そのほか、調査した全ての漁港内でカレニア・ミキモトイが確認されています。
- カレニア・ミキモトイは、数千～1 万細胞で魚介類に被害を及ぼします。
- 本種は、増殖初期は中層（主に 5 m 層前後）で増殖する性質を持っていますので、通常、海面からの観察では海水の着色が判別しにくい種類です。
- 漁港内での畜養は避け、出荷する際には早めの出荷をお願いします。

<ヘテロシグマ・アカシオの状況>

- 稲童漁港内で表層 1 ml 中に 50,000 細胞のヘテロシグマ・アカシオの増殖が認められました。
- ヘテロシグマ・アカシオは、1 万細胞/ml 以上で魚介類に被害を及ぼします。
- 漁港内での畜養は避け、出荷する際には早めの出荷をお願いします。

<貧酸素の状況>

- 調査した海域において酸素濃度 30% 以下の海域は確認されませんでした。
- ただし、蓑島いかだ付近の底層で酸素濃度 36% が確認されていますので、今後の情報にご注意ください。

※酸素濃度（DO(%)）は、およそ 30%以下で魚介類に影響を及ぼし、10%以下でへい死する恐れがあります。

<今後の状況>

○今後も、天候次第ではさらにプランクトンが増殖する可能性や海水の酸素濃度が低下する可能性がありますので、着色が認められていない港でも十分注意してください。

○研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報に十分ご注意下さい。

※今後、漁業被害、海面着色などがみられましたら、豊前海研究所（0979-82-2151、担当：俵積田、大形）までご連絡下さい。

表 7月28日調査結果

番号	採水場所	水深 (m)	採水層 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	カニア・ミモイ (細胞数/海水1ml)	ヘテロシグマ・アサシオ (細胞数/海水1ml)
①	柄杓田漁港	4.9	0	26.0	31.07	44	0
			B-1	25.8	31.34	390	0
②	恒見漁港	7.0	0	25.5	30.44	23	0
			5	25.3	30.86	1,080	0
			B-1	25.3	30.87	1,360	0
③	松山漁港	4.9	0	27.1	29.76	1,440	0
			B-1	26.6	30.37	98	0
④	苅田本港	4.6	0	26.9	30.15	0	0
			B-1	26.8	30.57	6	0
⑤	苅田南港	10.3	0	26.7	30.49	1	0
			5	26.1	30.47	11	0
			B-1	25.8	30.66	57	0
⑥	蓑島漁港	3.3	0	26.2	30.18	1	0
			B-1	26.2	30.37	7	0
⑦	稲童漁港	3.6	0	28.0	30.02	0	50,000
			B-1	27.6	30.19	3	1,490
⑧	宇島漁港	3.8	0	30.0	29.09	2	0
			B-1	28.9	29.40	18	0
⑨	吉富漁港	3.4	0	30.1	29.18	1	0
			B-1	29.0	29.56	2	0

図 7月28日調査点図

